



繪本金化

~ 13
3985
1





町宮福
 市川兼太郎
 三丁目



丁物不為一物狂
 其時日月亦為
 一物時其明



速水春曉齋画

畫本金花談

全部十二冊

書肆

寶昌堂藏

昭和41年12月20日寄
 原安三郎氏贈

門八13
號3985
卷1

滿智迺背氣歸半信

市方意叙志京響哥

商鄰久新系響盡然

容

新古今

賴朝卿

十五

畫本金花談序

夫治國出術者舉用賢才而仕出
然其君不明而失其舉用則反至
喪其國家自古亂臣賊士奮國殺
君者多親幸權貴出士也是其初
據國君失其舉用及振其威專其

權雖香忠臣棄如也何耳故舉用
出際可不慎與假令香究奸佞惡
出心處卑疏出地屈小吏出職長
雖由此欲逞其邪欲不可得也吁知
人難非知人出難用出實難凡爲人
君者爽學而可乎學而不明其德

善惡邪正何以分辯夷若朱紫不
相亂君子小人分辯則於治國家
何者頃閱小說金花談記一國廢
逆臣執國柄專威權作喪亂出夏
巨細曲說如置耳目於其地親見
聞也固小說家出言雖不足信概

能讀者鑒也為覆轍也戒於修身
治國也術豈鮮少乎哉及譜其序
為題卷端爾

西洲散人撰

繪本金花談惣目錄

第一之卷

岩城兵庫頭奸計の事

岩城鬼柳小卒の伝

才介勘解由生之托事

岩子山樵真の圖

才介の知が傳

才介の由岩城兵庫改よ合伴の事

岩味を厚才介の試る圖

奸臣友衛孤邪帯よ奪く事

第二之卷

繪本金花談惣目錄



友衛青樓小登り事 并 高園結の縁事 同圖

多園園後床次輝之図 并 吉本皇帝の事

傾城多々度床次輝する圖

揚中紀次馬籠事之図

若城才介之友衛次輝事 并 多々度再後床と輝事

若城才介友衛次輝の圖

友衛多園が徳典身金價會の事 同圖

并 名越山三并後膳渡次輝の事

多々度徳典身次輝名越山三の事

名越山三浮世渡平次輝の圖

不刺の者渡平が如に集りて皇女の后膳次輝の圖

頁三之卷

友衛園漱川を耕下遊の事

浮世渡平八町堀の友衛次輝待伏の事 其二 其二

伽羅下結の圖

是腐屋が妻次輝の圖

以萬金釣換傾城事

二浦屋廓中の定法よ事

花魁等高木が廓次輝の事

松ヶ崎乃別業の図

友衛多々園の海中に提斬の事

若柄幼年練言賜の事 同圖

牙四之卷

権系貞清言統好意幽友衛事

忠誠兵庫竊運意公若る圖

統士源金多統創る圖

友衛隱居形ひの事

五國の統士衣裏の門尺を護とる圖 其二

友衛隱居の圖 其二

友衛隱居番代十渡の事

大群定和因分義言統士の耳目次第圖

番代許儀市川後河義言の事

友千代家勢相續の事

牙五之卷

松並的之助の事 并的之助渡番徳金多助の事

的之助喰菜齋の圖

照谷常力の的之助代統るの圖

大場宗易毒菜網進の事

渡番毒菜次統と事 并的之助毒菜吟案統度

敵御昭統友千代君圖 的之助擔入陽協澤の圖

若城多庫次甥守統計の事 并才京奸計の事

毒菜統落統後見西士統夫統圖 毒死の尸骸見分の圖

牙六之卷

才京助解由忠誠決候の理代統事 同圖

岩城去庫蔵母小助次得事

菅野小助兼と交て竊ひ入事 其二

松並的之助兼野小助次殺事 同圖

的之助雪夜と天原次退事 其二

松並的之助兼殺事

獲明院壇次兼加持次殺事

岩城去庫蔵針的之助次隔事

岩城的之助が石我を罵る圖

牙七之卷

伊勢守仁器取捌の事 并 岩城去庫蔵論事

岩城去庫蔵的之助次罵る圖

槍皮作番匠奥殿の屋根次傳事

的之助荒井和助次捕事

松並的之助竊に幼君次獲事

荒井和助殺事と入事 松並荒井次捕事 其二

服谷帯刀刺客次捕事

帯刀刺客次捕事 伊勢志次并刺客次捕事

牙八之卷

河並三右衛門を殺の事 并 服谷帯刀捕事

河並三右衛門の家書成事

河並奉團より服谷対面の事 緒士評定事

一平の家士納杖次捕事

大に大昭吉夫廣元傳

伊賀澤田の兩士大江君小旗不圖

帶刀鎌倉之御所の半

友衡御書次濱澤に絶つて松ヶ崎より歸る圖

振谷常刀偽書次投不圖

秋篠清八掃部執中中尾浦に走る圖

第九之卷

於大政所邦正對決の半

第十之卷

鎌倉殿中向討に半

第十一之卷

岩城之庫頭被召取半

帶刀焼捨盟書半

才原勘解由奸刺半

才原罪小伏と不圖 才原隔針根谷安圖 其二

大に廣元仁惠榮若橋田と事次之移不圖

子員人梶原氏の館をわら半

第十二之卷

行島双十郎星夜出隠倉半

諸士評定の圖 諸士鎌倉へ張る圖

行島が智安亮次定不圖

岩城之庫頭父子既罪の半

山本須田多六士才原沢洗呂

才原密計擄才原兄才原

才原兄才原中山降行橋車

山本須田等の士才原が才原賄賂送不圖

園中中山沢討く降沢助の圖

才原兄才原飛伏とる不圖

貴野雙行園中平均の車

志士七緒恩者へ沢賜て貞喜の圖

繪本金花談總目錄 終

繪本金花談卷之一

目錄

岩城兵庫政奸計の車

岩城鬼柳ふ才原の図

才原初解ゆせは才原

岩城山抱喜の圖

才原辨之助の傳

其二



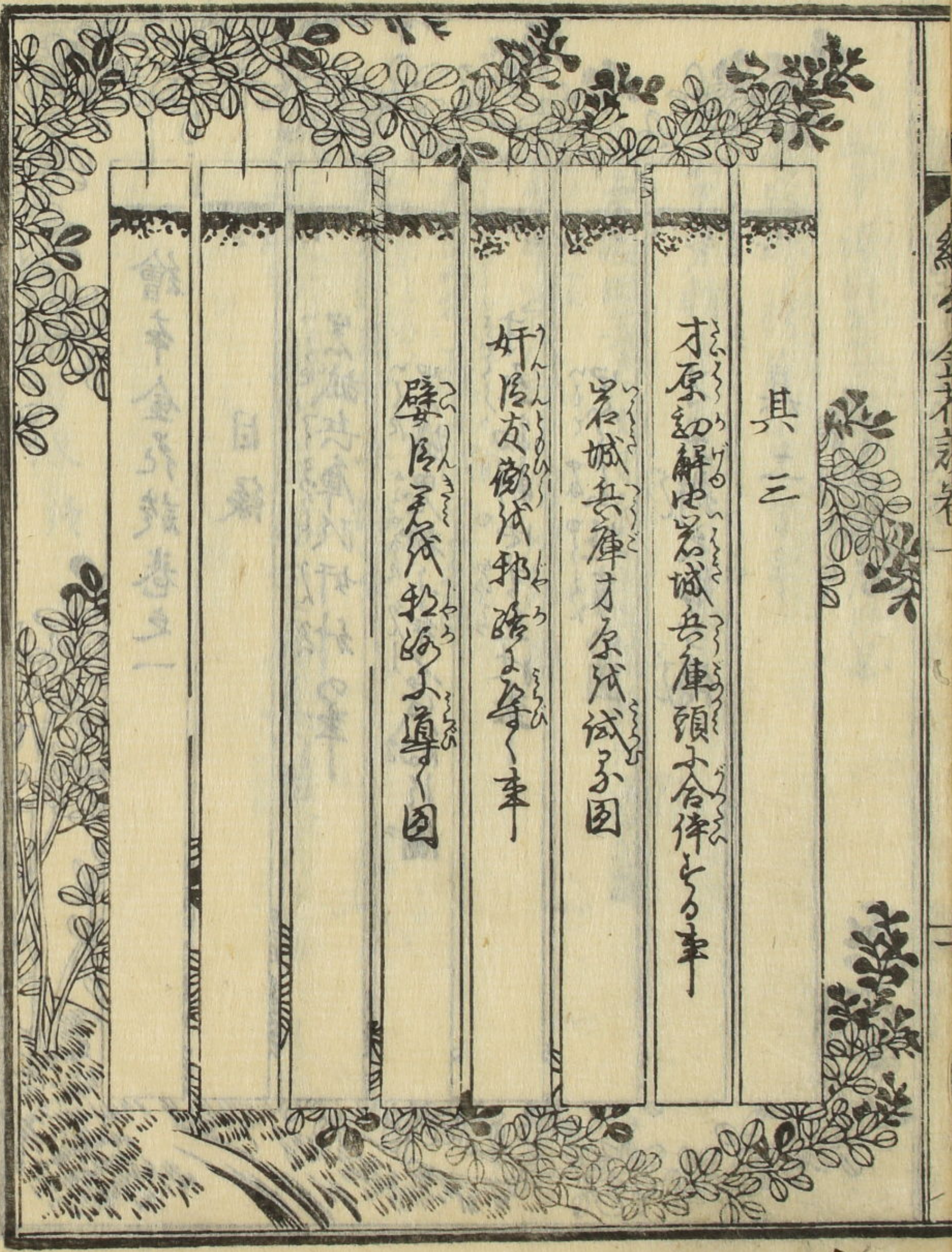
繪本金元終卷之一

岩城兵庫於奸計の事

上棟敷を繫て民の訟と待下上の直政を教ひまゝに教化の事
 附四海波靜みくこと以て用ひく徳をこゝにも亦代の方代と治り太平
 の附津風吹み任せく民衆の瘡を癒え物も亦育る扱も亦入る朝之
 とそみ為海の合戦二年二月の間み平家と海軍の原屑と切沈めぬ
 強倉み之汲水を茶剣一賢良良佐と擡び下の訟と空くはまゝに海内
 使み歸一四民服と鼓一和み道み落るると拾ふぬ亦代と治り
 たる後み文治六年陸奥國二十又那の互伊達泰衡と征へぬ泰衡罪
 み依て後み子友勝と征へぬ其那の互と伊達那み味廓と築き此不
 とおもく凱陣せしめて後國家へよく致るも固くやまぬ亦代

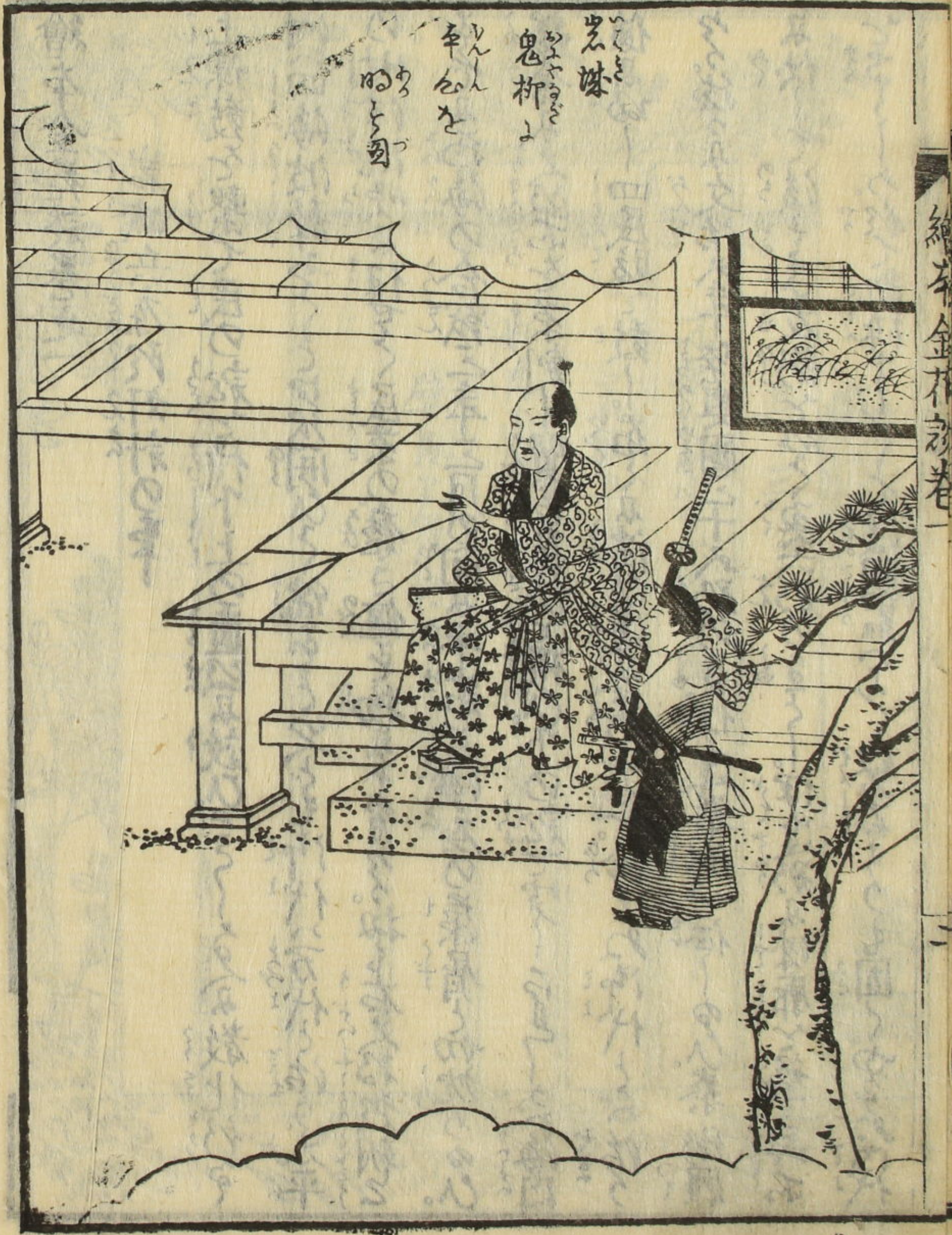
繪本金元終卷之一

三





鬼柳
 平太
 の
 時
 刻



才系劫解中が計ひ漏る事さ。我位若の解と考つる沈南と勝小
しく謀計なく。彼と逃ひ平段ととせられたる成程何の程さ。く有ん計
何さ。此方（此方）道恩（道恩）公（公）以（以）て（て）公（公）撃（撃）て（て）公（公）を（を）殺（殺）す（す）。鬼（鬼）柳（柳）が（が）言（言）ひ（ひ）て（て）
此（此）後（後）劫（劫）解（解）中（中）が（が）事（事）度（度）毎（毎）日（日）酒（酒）盆（盆）と（と）し（し）て（て）自（自）茶（茶）公（公）と（と）備（備）ふ（ふ）賓（賓）客（客）
の（の）如（如）く（く）と（と）さ（さ）す（す）。劫（劫）解（解）中（中）生（生）得（得）邪（邪）智（智）ふ（ふ）と（と）考（考）る（る）は（は）う（う）。と（と）是（是）所（所）の（の）
を（を）逐（逐）と（と）知（知）り（り）教（教）且（且）月（月）日（日）と（と）さ（さ）す（す）

才系劫解中生立の事

才系劫解中が生立と傳へし。渠劫推の時より。雨程と獲る事世
みはひるは者人。劫解中初名は。女と助と。と去父。才系及劫といえり。渠
は。十二歳の。同園若。とい。薊鴨の。と。地。く。花。の時。成。ぬ。れ。ん。
と。正。和。夏。と。花。種。と。さ。る。地。の。也。一。年。薊。鴨。盛。る。の。時。は。く。齡。の。程

う。朋友と遠き。男。と。た。さ。う。う。才。系。の。子。小。平。太。青。本。主。助。は
下。部。二。人。付。送。ひ。山。中。風。来。よ。う。の。女。等。を。種。と。さ。合。子。竹。筒。を。取。り。者
の。意。と。し。ら。感。を。抱。ひ。且。日。の。暮。る。と。去。志。且。お。堂。藤。碌。の。癖。と。く
お。る。時。節。さ。の。事。と。い。言。す。と。ま。ひ。ぬ。籠。と。さ。す。ま。ん。と。同。じ。殿。が
已。同。士。が。吹。迫。運。迫。さ。ぬ。ぐ。の。意。を。取。ら。う。と。柳。天。救。律。或。ひ。は。端。脚。踏。指
と。提。て。毎。度。の。物。直。加。る。と。は。後。の。く。碎。爛。と。ゆ。く。時。節。と。も。お。忘。れ
と。る。入。相。の。様。う。く。と。若。る。且。青。本。主。助。登。高。山。た。り。く。と。示。女。と。助。が
朋友。と。い。く。女。等。と。引。連。い。し。あ。し。い。と。い。時。節。と。助。は。も。あ。う。く。や。等。と。さ。處
許。且。足。と。た。い。ば。お。堂。下。部。等。に。呼。出。せ。ら。れ。る。答。へ。る。物。は。本。魂。の。形
も。辺。を。見。足。だ。れ。朋友。の。小。児。身。付。送。ひ。あ。う。く。奴。僕。た。け。且。も。因。草。ふ。つ
め。と。山。よ。谷。よ。と。あ。る。同。と。ら。山。中。冥。と。さ。し。と。踏。さ。し。た。寂。寞。と。ら。才。系。が



新編 金瓶梅 卷一



會中入道花火卷一

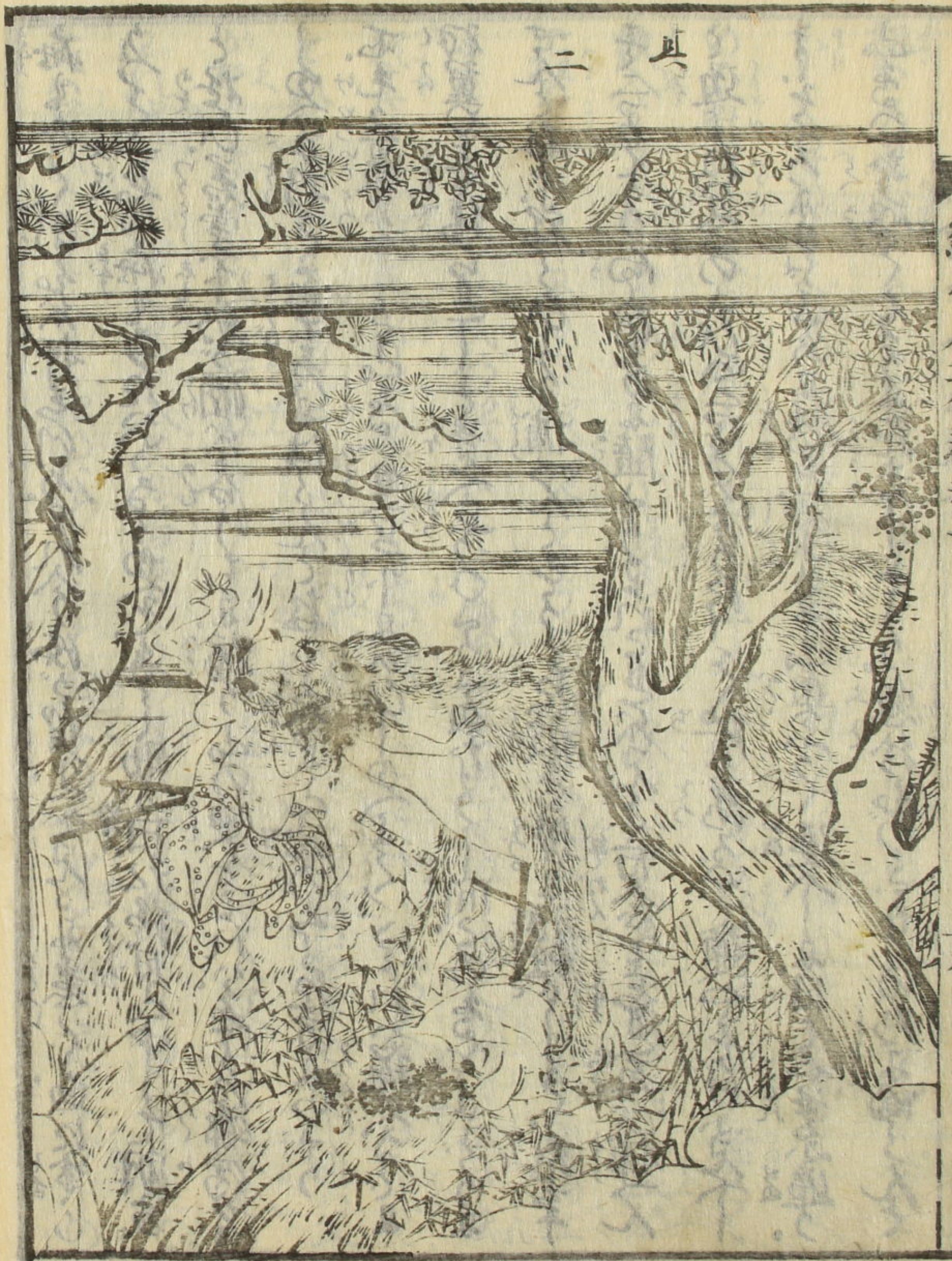
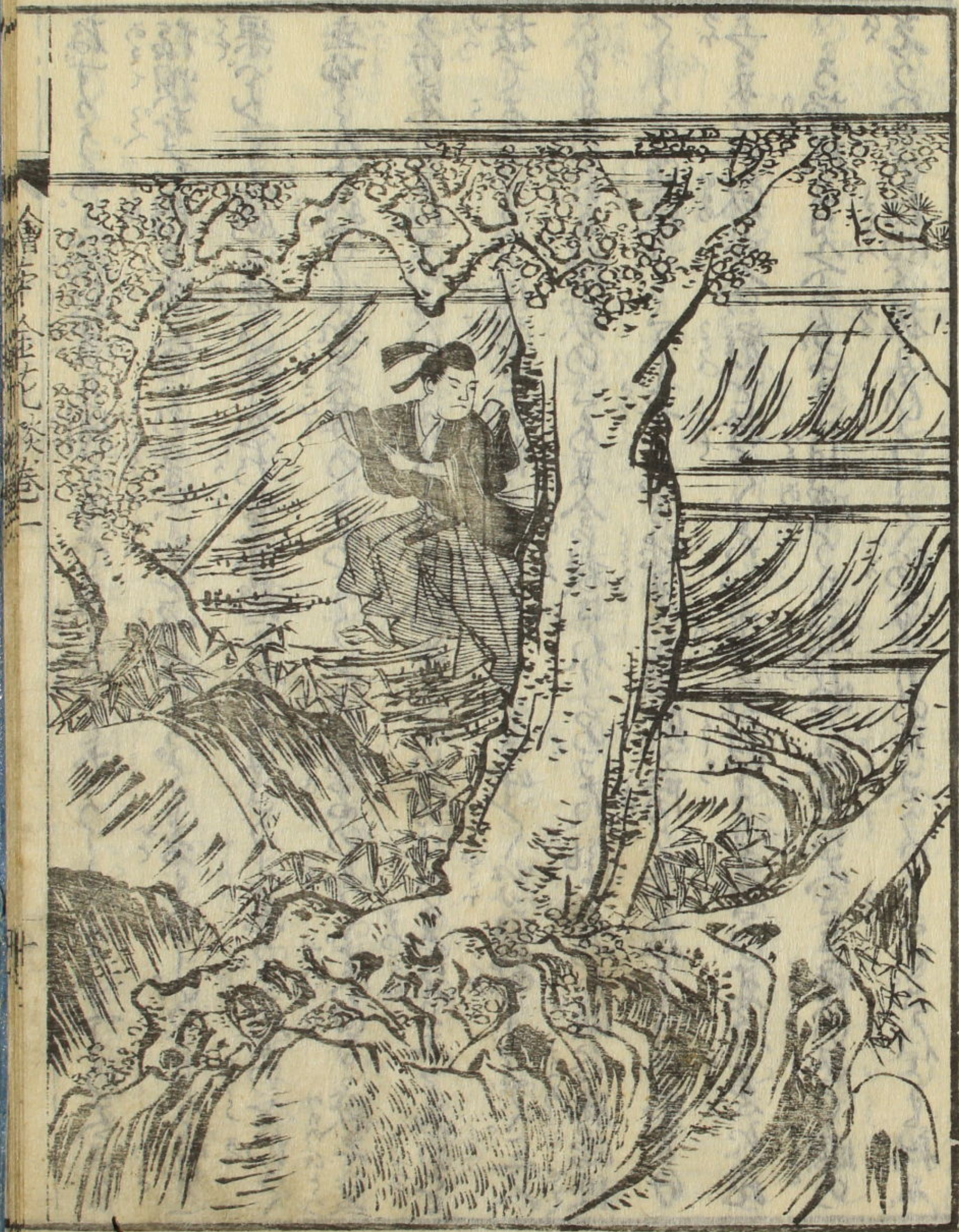


松
の
助
の
傳

繪本金瓶梅卷一

極の者歎のふりも害むれらう。我子の男の上は死せし。まを
 かく身なう。谷の本に回し押しの捨けけりけり。倒せし人
 の死骸をたぐり。執りて。平太くも。刀と拵持さう。吐を嚙して
 殺入り。真例も下り。是も及ぶ。うも。喰ねて。入る。ぬ。民は
 殺すの。く。みる。た。谷。さ。く。く。お。白。の。棟。月。映。の。上
 立。る。者。の。民。初。松。上。く。疾。く。我。子。母。助。之。備。牙。血。み。塗
 取。上。う。面。の。い。る。て。悲。く。未。と。露。う。く。民。初。者。を。上。て
 そ。る。の。母。助。な。子。や。民。初。母。の。一。を。形。状。の。何。事。を。母。助。父
 が。怒。り。て。精。心。扶。け。て。忽。ち。刀。と。地。に。投。げ。て。父。上。り。て。在。り
 され。過。く。中。に。迷。ひ。入。り。父。母。若。者。の。け。も。せ。一。足。の。く。と。中。に。母。を
 父。は。ほ。ひ。ぶ。ん。た。く。松。の。木。を。一。て。我。子。の。全。身。と。執。り。て。ふ。か。の。

病もたぐ。病を松押志のり。今母が。以上と。母を。血に。塗る。
 かく。一。長。の。病。も。た。い。う。る。母。を。母。助。曰。松。終。日。中。て。朋。友
 と。任。ひ。若。者。不。効。が。酒。を。吞。り。し。母。楊。の。の。岐。を。た。い。は。を。を。了。齋。粥。者
 し。母。お。お。病。を。母。は。し。ん。と。ね。密。に。山。路。の。く。た。方。み。い。り
 玉。毛。色。最。美。く。し。心。を。一。隻。豆。下。の。ひ。ひ。と。く。これ。は。病。入。る。と。母
 那。翼。と。お。傷。ら。し。く。母。之。立。う。の。る。を。た。う。一。回。の。も。を。と。ん。ら。母
 口。を。ね。ど。移。り。ひ。う。捕。つ。ん。と。と。た。彼。を。僅。に。殺。す。く。飛。車
 を。二。三。の。う。向。の。方。を。隨。う。と。た。母。を。た。く。百。念。を。事。を。再。び。捕。入
 と。迫。り。た。母。の。ま。ひ。の。に。母。を。う。け。と。地。を。踏。る。母。捕。や。と。け。す。下
 ま。を。と。る。母。を。う。け。と。母。を。た。く。真。ま。う。く。逐。不。母。目。を。母。を。捕。り。
 山。の。一。帯。を。く。と。う。母。を。去。り。母。を。う。け。忽。ち。母。を。た。く。の。乃。母。を。う。ん。と



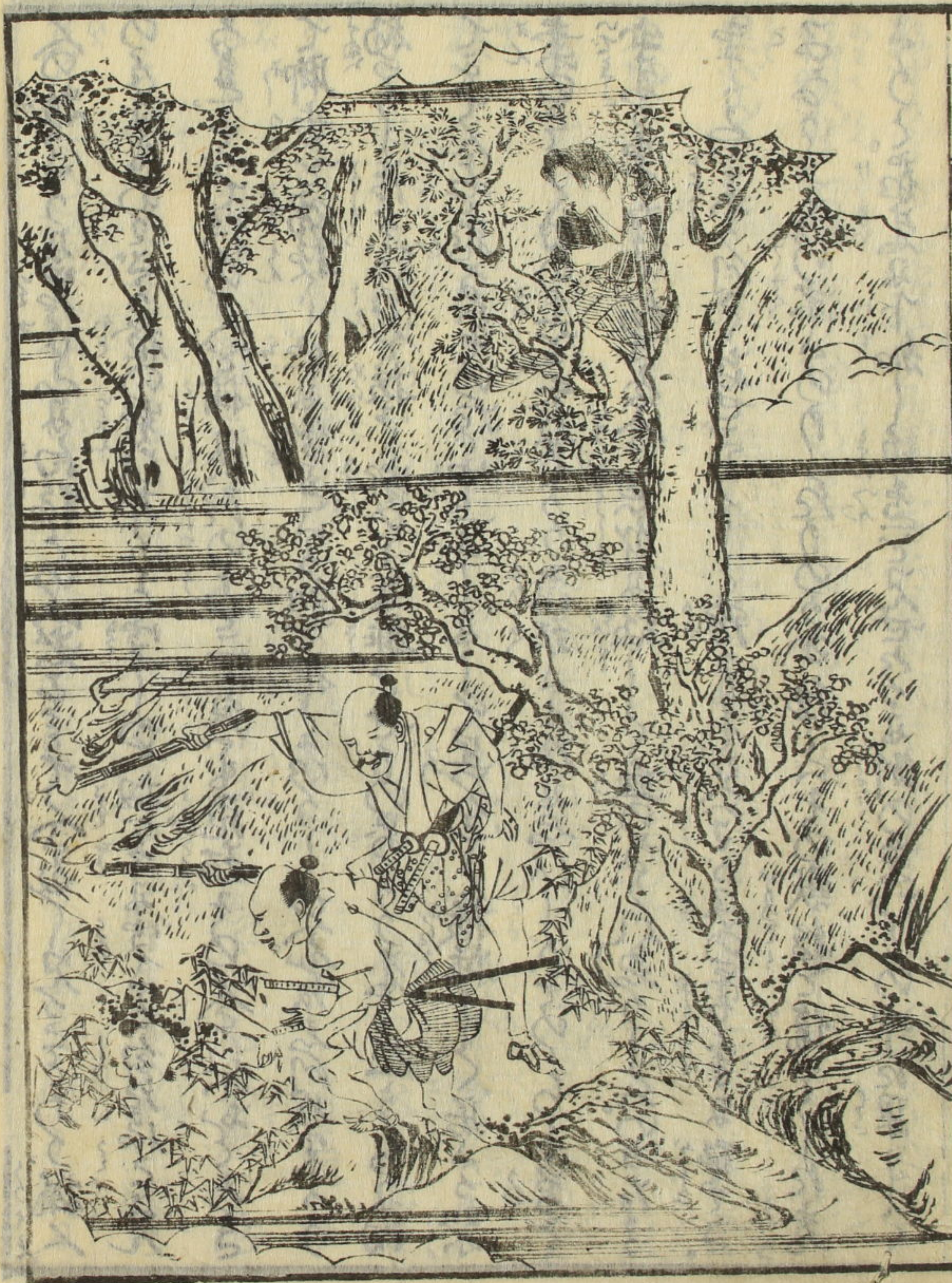
だすつらち。山邊の奥の園を渡る者も昏たなりしよりまづうすさ
 根根を阻り。あつたに覺下りてひゞも者もあつたさへぞ世に
 果つし、いそひ速ひつゝ怒れ覺下りて人ももまづうすさ力せやく
 立ゆんとなせし。知茶のちううすその世の物もくまらぬ。眞白の
 うけまらぬれをけけ飛くる。その人おとちうすまゝにみかを
 振くまらぬ。根根と切倒さんとせしる。ゆく勢ひ缺く。こゝ
 との目もみ根根のこゝちも合殺ならぬ。つたに谷腳踏
 く。進退のこゝ。平らなる地も根根と防らぬ。この地をけ
 上るみる。獸を人の根根をけし追ひ。後うすまゝに急な飛
 う。根根をけし。つと月明る。み根根はとる。この地をけし。根
 根のこゝの根根をけし。いづくにいたる。その人おとちうすさ力せやく

人の物ころも根根のこゝちも合殺なり。この地をけし。根根を
 のこゝちも合殺なり。根根のこゝちも合殺なり。この地をけし。根根を
 り。根根のこゝちも合殺なり。この地をけし。根根を
 て脚歩と踏抜。地も倒し。知る把てあつ。いづくにいたる。その人
 初つ。老老の力を振く。家のしも振く。その人おとちうすさ力せやく
 てとる。上を飛べし。その中。こゝちも合殺なり。この地をけし。根根を
 素のこゝちも合殺なり。この地をけし。根根を
 出まらぬ。かゝる。今も合殺なり。この地をけし。根根を
 事つ。まらぬ。いづくにいたる。その人おとちうすさ力せやく
 みる。こゝちも合殺なり。この地をけし。根根を
 つ。こゝちも合殺なり。この地をけし。根根を

會中 金太郎 卷二



其三



一足の白根後皮はむ裂傷ら至腸溢せ死し。珠日存し。助し沈雷
 又膽とらひかぎりおむりませ。懸る極悪の獸との腸をさうり。ち
 全く又の疾がのこも知て程なる。此刃は民がり。又オ系肉に。えがとた
 峯が中魚の粗秀。湯より極り。牛王老元の業物之民が。さうの
 玉車。在し。と飲び。家僕が死な。憐れ。さう。又勢と。徳。日。後。り。ま。の
 毎く。助と。轄。の。せ。こ。人。が。死。て。人。ま。あ。指。せ。夜。の。うち。あ。ゆ。り。る。そ。の。ち
 毎く。助。武。魂。と。さ。の。け。も。力。を。あ。た。せ。一。國。を。さ。う。ひ。さ。く。け。し。神。術。を。徒
 孫。死。活。の。法。拳。と。用。ゆ。り。車。鬼。神。不。思。議。の。業。あ。り。智。界。勇。極。法。人
 ぬ。新。果。し。く。あ。の。祝。事。し。し。成。ふ。り。

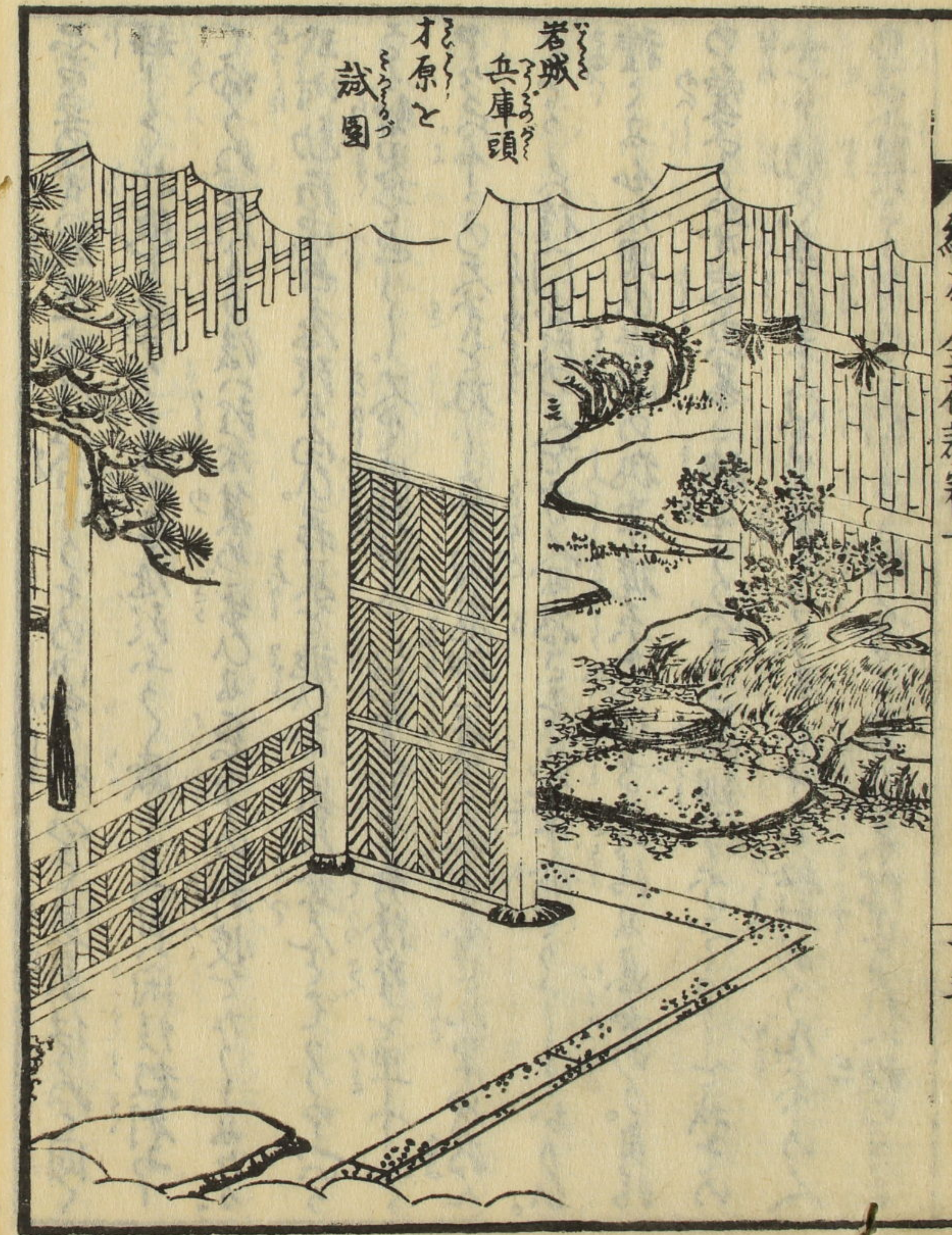
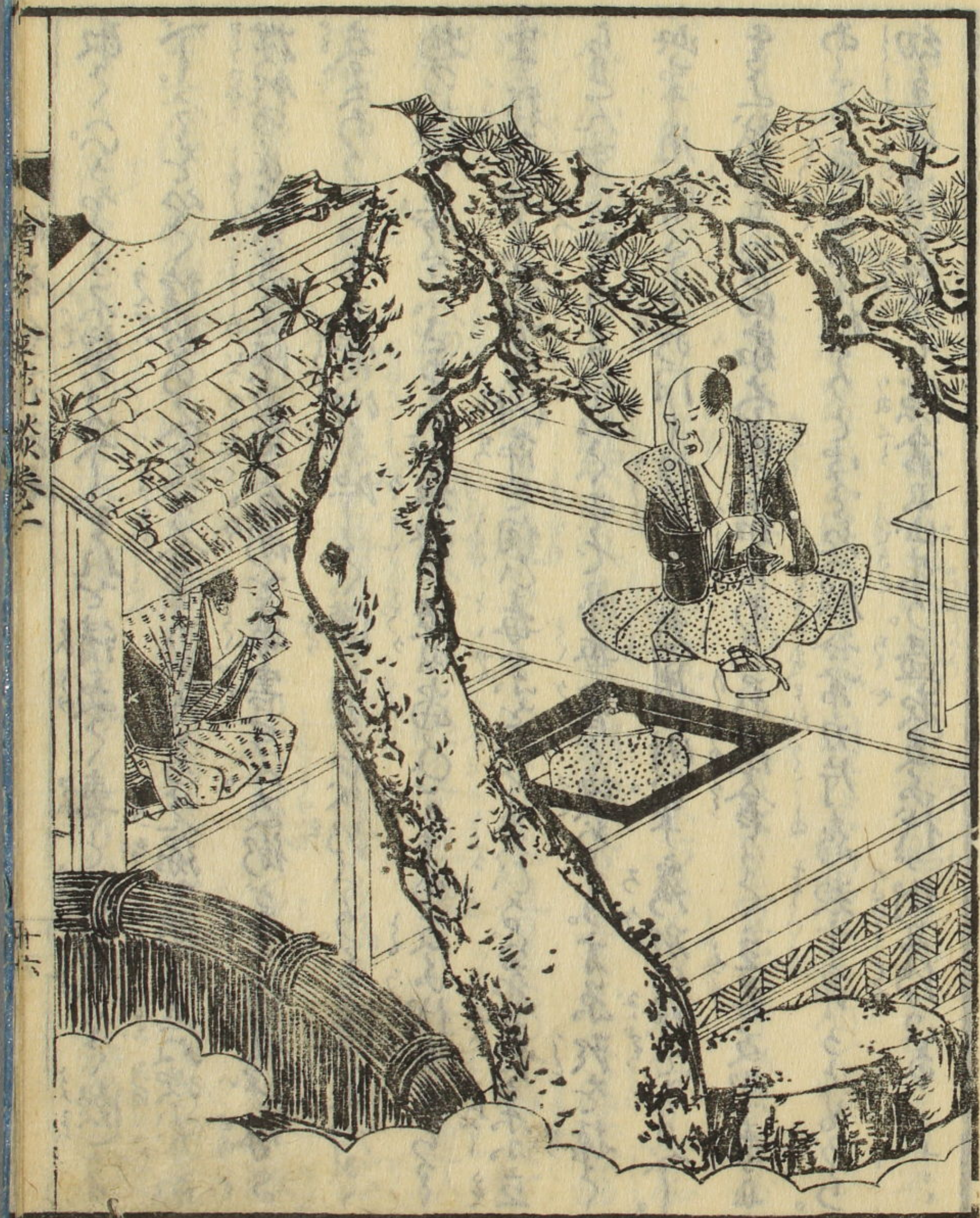
オ系初解は若珠を床改め合作とる事

若珠を床改修。侍。何。とも。オ系初。あ。申。公。一。味。は。成。を。と。目。に。ん。が

そし。渠。好。め。る。事。体。き。と。と。曹。公。徳。の。良。友。賢。之。用。ひ。と。り。り。と。せ。し
 げ。し。の。方。か。り。あ。る。若。珠。配。置。極。精。と。と。若。公。等。一。矢。と。言。し。
 客。を。あ。ひ。と。且。さ。さ。の。寶。を。あ。の。と。す。接。れ。も。流。石。も。あ。ま。へ。指。出。し。疑。こ
 ら。ひ。あ。と。く。か。を。さ。り。一。あ。ひ。と。さ。う。り。り。或。と。た。が。士。鬼。柳。一。言。を
 接。下。り。振。り。も。ち。う。り。光。陰。集。の。と。と。二。三。二。四。三。振。た。お。う。ち。に。救。ぬ。の
 月。日。と。と。老。令。う。り。あ。り。オ系。若。珠。を。床。改。め。り。と。と。後。を。れ。と。も。渠
 が。根。を。う。り。ご。と。と。と。根。が。外。に。出。て。し。つ。ら。る。酒。器。を。用。ひ。と。と。る。り。
 づ。ん。は。懸。く。射。と。鬼。柳。が。白。刃。日。オ系。と。は。且。例。の。通。客。無。し。の。ら。ひ。と。後
 一。大。乗。が。ゆ。り。の。も。や。り。は。流。の。と。と。渠。を。さ。さ。り。り。女。事。は。は。じ。ま。り。若。珠
 と。背。た。ま。し。時。若。公。の。の。と。と。ひ。に。か。り。今。の。と。と。い。ひ。ら。備。に。決。ら。た。珠
 を。城。へ。り。さ。と。の。と。ひ。に。た。と。り。酒。盃。と。と。り。盛。漬。の。と。渠。を。譯。る

已と忘すく深人の約は得らじ士は禄のよりみ守を忘れず其功を
 亡と世首より禄のよりみ力と出づ功を成らんとするもの國を治
 する後一番其功と亡する漢朝の淮陰侯韓信は天下の豪傑と
 して忽ち齊の國の國貴たるをんとすその國の王となるを承りて
 漢王の心を悦ばせられた韓信は背く事なれども齊の大國を治り當
 渠をも承りてこそしり楚の項王と亡く後韓信と未央王が切に
 申し清く事歎せし物者ならし是れを承りて申すも申すも
 使され賞とその功と考ふ勅命の中君のよりみ功と抛くたは承らん
 り文武福のよりみあり晋の侯嬴は言士にして知人のよりみ
 集不智の臣也君を知らしあらしむ事此れと承りて承りて承りて
 不た承はすものよりみ伯樂は遠く千里の麒麟とする道理を承り

忠臣の義を既且一あひの事よりその事案をひく事案はなりと國々
 群して折紙と承りしに在るる感に其目(困)疑殺刺あ
 てゆりぬられしう後に既に集めしむる事案の計收となしむる
 武財勅命は在る處に在り君其を詭に承りて奪んとなしむる
 るる事案を承りしに在るる事案を承りしに在るる事案を承りし
 するる事案の大案となしむる事案を承りしに在るる事案を承りし
 とするしに在るる事案を承りしに在るる事案を承りしに在るる
 種とみんを用以常時の執事梶原飛騨も貞信も忠女なり貞信
 の愛子として容直也醜みしういままに嫁組ともふささしむる我その
 女を納るる事案を承りしに在るる事案を承りしに在るる事案を承りし
 のより迷はざる者なり別しく婦令など容姿不整止るれば親の身も



岩城
兵庫頭
杉原と
蔵園

新本金持巻一

取ていづやとて不覺たす。それを清文と妻とおぼ定めて敷く
 下。こをかく控勢の金を方人より入らば縁と賑と墨ぬ次ふが
 横領のよ辰の苗と陸奥の友衛と毒害せん去衛が伊達伊勢
 友貞ありとて。常時分地しく。僕二方石取ゆり。ふて是を
 物の指ひまぐ。さまたんが督の僕も苗の二才の友子代り
 半疑ひる。是とも時節を伺ひ毒業をひき、失ひるが家名
 らん半改せり。こをひきまぐ毒害と改めり。才取取を
 此半用ひて。お日一保斗を二度用る時、半病の媒とる人
 ぞと我が世の家大の家長あり。お孫倉より。ま君友衛毒
 あつり半改せられ。うとて改められた。服谷常刀片島
 幼守護をたてて孫倉も出せり。益友友子代が例も
 毒は用ひる事、世のつらさ。向後いふ事、謀略もそのひ
 一。まみ計畧を任せあり。ま遠り。本園老后のまも眉と
 ひま。ま原院が曰。ま改め但するのよ。おまも。且ま計ひ
 下。ま改め奇計のま背。才取取曰。ま改めまのま改め
 人の心の初。ま改めま改め。ま改めま改め。ま改めま改め
 時。ま改めま改め。ま改めま改め。ま改めま改め。ま改め
 摩り導く。ま改め人物と見立。例役。ま改めま改め。ま改め
 とす。ま改め自然と改め。ま改め導き。將軍の上。ま改め
 ま改め。ま改め。ま改め。ま改め。ま改め。ま改め。ま改め
 世上。活と取。ま改め。ま改め。ま改め。ま改め。ま改め。ま改め
 と。ま改め。ま改め。ま改め。ま改め。ま改め。ま改め。ま改め

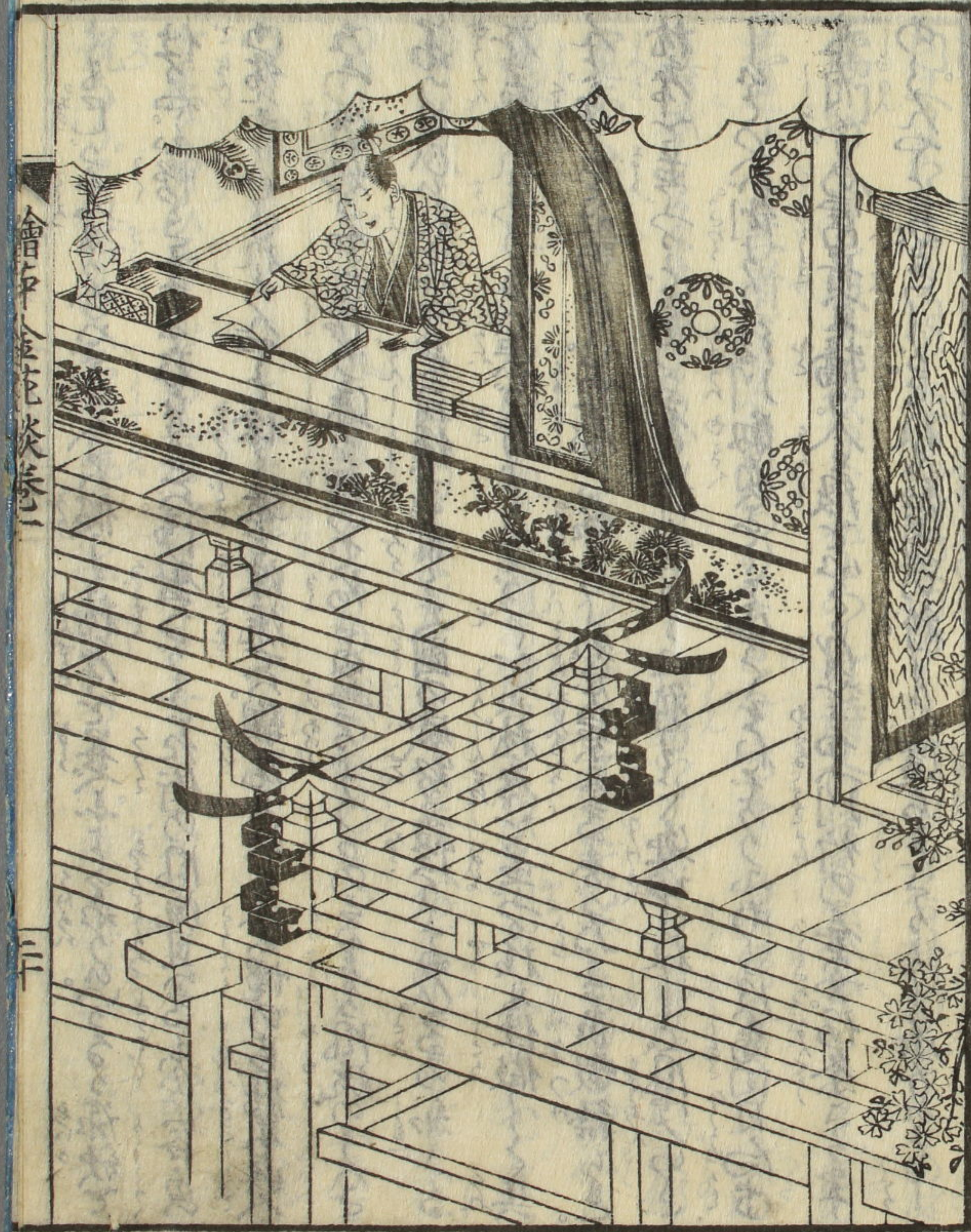
毒は用ひる事、世のつらさ。向後いふ事、謀略もそのひ
 一。まみ計畧を任せあり。ま遠り。本園老后のまも眉と
 ひま。ま原院が曰。ま改め但するのよ。おまも。且ま計ひ
 下。ま改め奇計のま背。才取取曰。ま改めまのま改め
 人の心の初。ま改めま改め。ま改めま改め。ま改めま改め
 時。ま改めま改め。ま改めま改め。ま改めま改め。ま改め
 摩り導く。ま改め人物と見立。例役。ま改めま改め。ま改め
 とす。ま改め自然と改め。ま改め導き。將軍の上。ま改め
 ま改め。ま改め。ま改め。ま改め。ま改め。ま改め。ま改め
 世上。活と取。ま改め。ま改め。ま改め。ま改め。ま改め。ま改め
 と。ま改め。ま改め。ま改め。ま改め。ま改め。ま改め。ま改め

の端ともたふす。そとく退居をまてしとて命を借く友徳を押し進めし
友徳代り世にお成付。七果未達の小児とてく之國の守備一人とてさるひ
難く友徳代成長なる事とていふ。去座院と書代とてさるひ。その教命とて
云せ。書代めさるひ。今書代を替ひ今日十日倍し。一人とて君も若く
ののちとてそのうち骨尾とていふ。密に毒業をひく。友徳とてさるひ。だし。
形勢のころる。保斗少くも務成せ。万軍全く成勢はる。一人とてさ
みとるゆく。ゆみそ。え。未。款。心。混。り。る。た。若。様。を。座。推。進。し。て。教。大。此
事。免。れ。く。妙。計。之。此。上。六。海。の。計。策。其。事。と。て。一。と。密。業。を。ひ。く。合。せ。
そ。白。才。系。の。務。め。悪。事。の。廟。奉。し。て。ゆ。り。り。る。

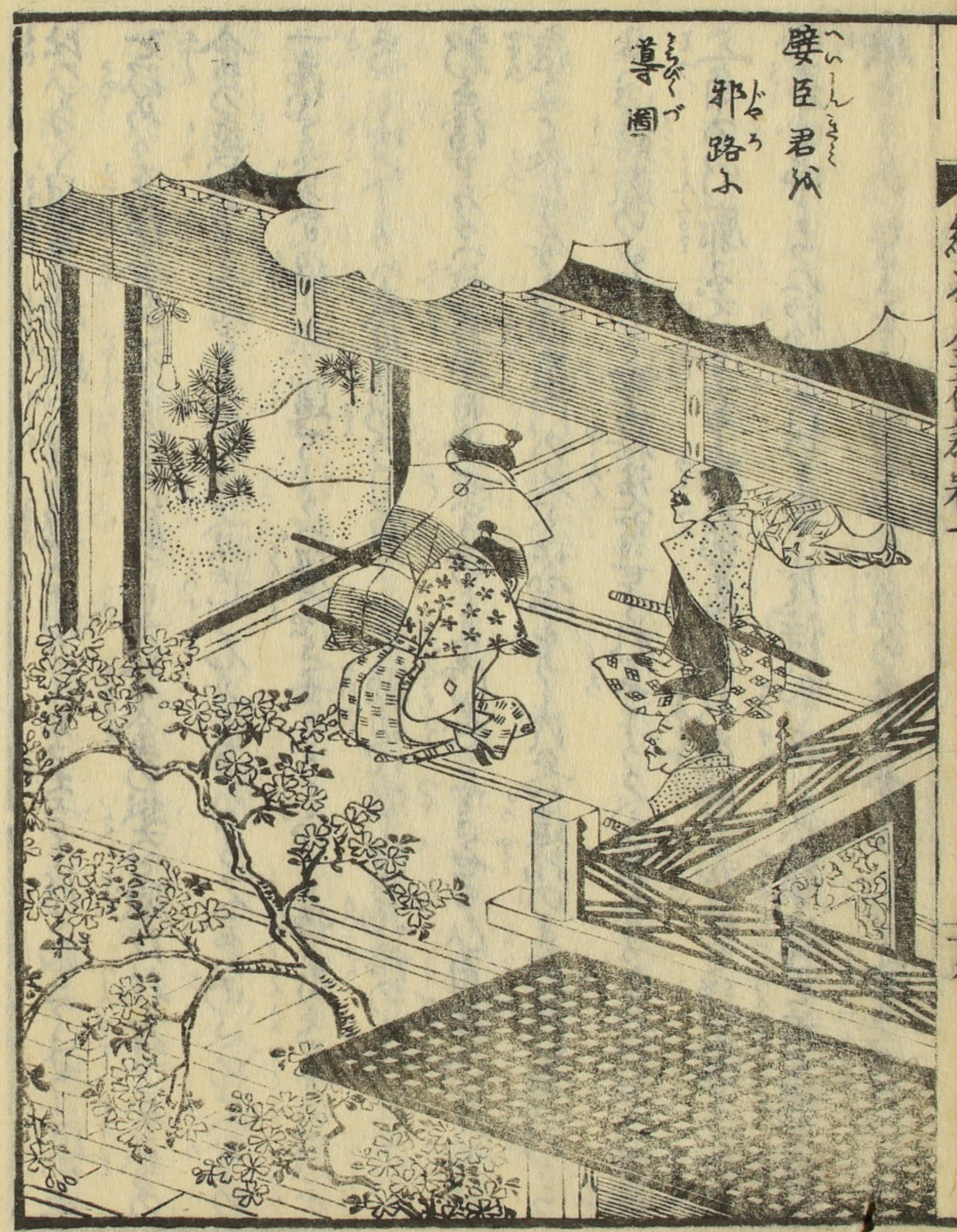
奸臣友徳と邪路と導く事

却況才系は君臣教代の旧恩を忘却し。若様父子の共悪を事し。家業

まへとてまてし。悪行とてまてし。導人とて。肉とお鞭の壁とて。撥ひ。例。み。て
付。重。なる。その。業。其。後。初。新。を。清。務。本。真。又。方。の。後。川。勲。負。志。を。事。す。
横。山。孫。之。を。つ。る。と。輔。同。才。の。者。も。各。舌。六。海。と。も。山。み。龍。と。曲。漢。
そ。才。系。其。同。才。の。徒。附。節。も。あ。る。ま。人。と。悪。道。を。導。令。と。あ。り。ひ。る。控。れ
ども。友。徳。生。の。身。の。ゆ。ひ。平。く。孔。魚。の。事。も。志。し。と。せ。婦。人。衣。遠。さ。ひ。
平。日。近。臣。若。み。對。し。て。作。せ。ら。る。上。さ。り。今。め。あ。り。ま。す。酒。色。の。國。如。と
亡。や。ま。の。奉。と。教。つ。う。た。を。ま。て。異。朝。の。む。う。と。考。ま。る。般。の。討。王。れ
姐。已。と。寤。愛。し。と。亡。ひ。し。う。周。の。幽。王。と。て。わ。る。屋。の。言。宗。の。事。市。る。と。
會。く。婦。人。の。乃。玉。改。攘。礼。方。氏。若。く。と。世。業。と。祖。と。と。辱。し。と。友。と。ひ。く
平。乃。其。例。小。女。と。並。と。天。下。と。活。れ。一。世。不。あ。り。も。小。小。ま。り。り。と。い。く。と。も
その。事。の。目。下。汝。等。徒。の。乃。汝。慎。之。と。教。化。せ。れ。ら。る。是。が。う。ち。流。石。小



會中人金花火卷一



眞圖
 嬖臣君父
 邪路ふ

繪本金枝新卷一

ともじうもふかひう人へ恨ま柳席と巻ごとと束りいなる海致と
 仕る心悟と事みねを且に海致さうた街の風流且言ふ容由
 出苑あきせられんやと徐々毒ぞ深流に驥尾はけく金堀の長橋本真又
 たり波致る心悟り過る裡の心ゆさぬ此よりうのさまら風流のうた
 弟り及びは加加と元同後者自の國の威勢も悟りしゆひさの知し
 なるそんまらうらな深が方よりうのさまら柳席と並つ花は仕做しと其
 くと廣志とはらし。花柳も致し知度家もさうらうらあ假籍ら且
 枕席と並つとところる否早んうら花柳と遊ゆれりと風流の
 いかの例より綾川初夜ととゆくそんぞうりふあはは島田日向
 も月からの富貴も橋り全夜ととゆく身とま川竹の憂女何条さう車
 めらんやと致しととこれら知度家の神とと還らまうらうり水ひと市

内さうさうより月日宛の裡漢系田市へ並行似て先日津田人さうその心
 儒門の人たるが奴みね致しとと家あはは詩文の務者我が家の事うらさの
 志見する女也者ととんされはついでとととと詩の務者う津田
 が詩致さうらまゑをさうらうらととと評審つととととと存致それ友衛
 寛尔と笑を會みぬ致さうらとととと其さとととと島田生田の如
 らあ夢もさうらとと下の決候もぞ数腹の借戸の属ひとととと。夢婦かどた
 めよりみかとうらととと。やう津田人さうあははと下の活人何ぞとととととと仕
 つつらととと。すべて二巻を通達とととの。二代の修りあははととととととと
 らす事うらととと。それれ他女何れのとととととととととととととととととと
 とととととととと。その上は致とととととととととととととととととと
 説さう。それ俗よつととととととととととととととととととととととととと

